

日本化粧品工業連合会総会にあたって

2 0 2 1 年 7 月
日 本 化 粧 品 工 業 連 合 会
会 長 魚 谷 雅 彦

粧工連傘下会員の皆様

新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、残念ながら、昨年に引き続き本年の粧工連総会も書面開催となりました。本来であれば、コロナ禍で奮闘されている会員の皆様に直接メッセージをお伝えすべきところですが、このような形で御挨拶申し上げますことを御了承いただきたく存じます。

御承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしただけでなく、経済にも甚大な損害をもたらしています。化粧品産業においても、昨年の国内出荷金額は前年比16%減の1兆4,749億円となりました。政府の試算によれば、昨年の訪日外国人旅行消費額は前年比85%減とされています。これは、数年来、化粧品産業の成長を支えてきたインバウンド売上が昨年1年間はほぼ全て失われたことを意味します。その影響は今も続いており、私たちは現下の対応とともに、アフターコロナを見据えた取り組みも進めていかなければなりません。

アフターコロナにおいて化粧品産業が再び成長軌道に乗るためには、コロナ後の新たな化粧ニーズを的確にとらえた製品やサービスを開発し、提案していくことが不可欠です。急速な進展が見込まれるデジタル化への対応も大きな課題です。さらに、化粧品市場のグローバル化はこれからも進み、国際市場での競争は一層激しくなっていきます。私たちを取り巻く環境は、これから加速度を増して変化していくのは間違いありません。

私たち化粧品産業には、美しさを追求する情熱とそれを実現する確かな技術があります。厳しい環境下にあります。今こそ、変革を進める好機と捉え、これまで培ってきた知識や経験を遺憾なく発揮し、切磋琢磨することによって、新時代の化粧品産業を創出してまいりましょう。生活に潤いと活力を与える化粧品の重要性はこれからも変わることはありません。むしろ、今のような困難な時代にこそ、化粧品産業がその社会的役割を大いに果たすことが期待されているといっても過言ではありません。

粧工連では、これまで消費者に信頼され、真に国際競争力のある化粧品産業の実現を目指して、さまざまな事業を推進してきました。これからも世界における日本の化粧品産業の存在感を高めるべく、会員の皆様とともに課題に取り組んでまいります。そのためには、粧工連を会員の皆様の信頼にお応えできる、より強固で持続可能な体制にすることが必要です。粧工連組織の強化も重要な課題と捉えています。

今後も日本の化粧品産業の発展のために全力を尽くしてまいりますので、引き続き皆様の御支援、御協力をよろしくお願いいたします。